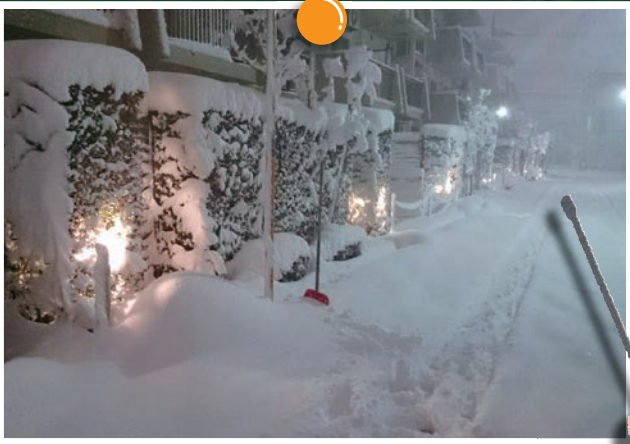
# 気象キャスターが解説！ 天気のミカタ

連載 第2回

# 雪

気象キャスターネットワーク



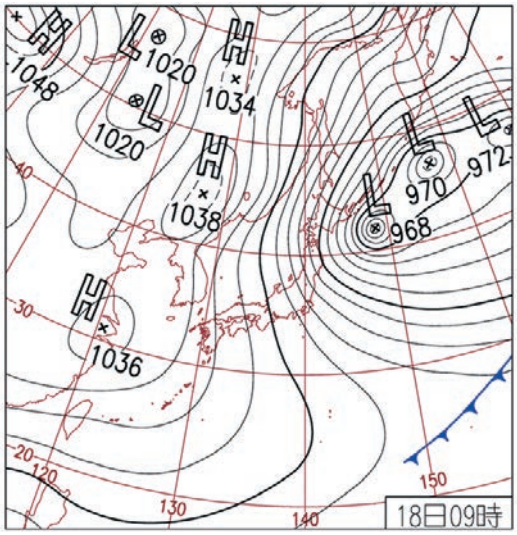
## 太平洋側の大雪

「雪は天から送られた手紙である」というのは、雪の研究者であり、随筆家でもある中谷宇吉郎氏の言葉です。雪の結晶は、主に上空の気温や水蒸気量によって様々な形へ成長します。中谷氏はこのことを発見しました。逆の見方をすれば、結晶の形から上空の気象状態が推定できることになり、雪はそれを知らせてくれる〝手紙〟と表現したのです。

雪というと、北国、また日本海側で降るイメージがありますが、私が住む太平洋側の名古屋市は、ほぼ毎年のように、ひと冬に一度は雪が積もります。数cm、時には10cmを超えることもあります。過去に最も雪が積もった記録は、戦後間もない1945年12月19日の49cmです。一方、地球温暖化が叫ばれる近年でも、2014年12月18日には、23cmの積雪を記録しています。これほどの大雪はもちろん、ほんの数cmの積雪とは言っても、雪に慣れていない土地ですので、交通は大混乱です。冬用タイヤに変えない車の方が多く、一旦雪が積もると、スリップしてガードレールにぶつかってしまう車や、タイヤが空回りして動けない車をよく見かけます。

しかし、雪が積もるとひとことに言っても、時により、雪質が違います。サラッとした「粉雪」のときもあれば、ベチャッとした「ぼたん雪」のときもあります。名古屋の大雪は、大きく分けて2つのパターンがあるのです。

## 西高東低の冬型による雪




2014年12月18日の天気図（気象庁HPより）

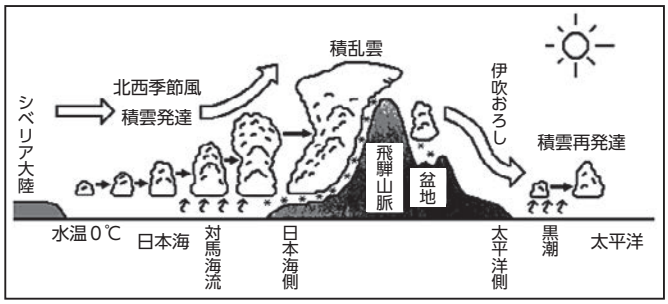
ひとつは、西高東低の冬型の気圧配置のときです。冬になると、テレビの気象情報で、よく耳にする言葉ではないでしょうか。上述の2014年12月18日の大雪は、この冬型によるものでした。天気図を見ると、日本列島を挟んで、西に高気圧、東に低気圧があって、等圧線は縦じま模様になっています。高気圧の周りは、時計回りに風が吹き出し、一方低気圧の周りは、反時計回りに風が吹き込みます。このため冬型の場合、日本付近は大陸から北や北西の季節風が吹きます。この風は、大陸では冷たく乾いていますが、暖


Profile

山田（やまだ） 修作（しゅうさく）

気象予報士
メ～テレ（名古屋テレビ）気象キャスター
愛媛県生まれ。東北大学卒業、筑波大学大学院修了後、2002年に南日本放送にアナウンサーとして入社。在職中に気象予報士を取得。
2006年からメ～テレに移り、現在は夕方のニュース情報番組「UP！」と朝の情報番組「ドデスカ！」で月～金曜日の気象キャスターを担当。趣味は「水泳」、「トライアスロン」、「芋焼酎」。座右の銘は「人生なるようになる、なるようにしかならない。」。

かい日本海を渡るときに、海からたっぷりの水蒸気の補給を受けて湿った空気になり、その風が、日本の中央にある脊梁山脈* にぶつかって上昇し雪雲（積乱雲）が発達することで、日本海側にたくさんの雪を降らせます。一方太平洋側では、乾燥した晴天になることが多く、濃尾平野では伊吹おろしが吹きます。




冬型で雪が降る模式図（名古屋地方気象台HPより）

冬型の気圧配置で、等圧線が日本にかかる本数が多いほど、強い冬型といいます。また等圧線の間隔が狭いほど、気圧の傾きは大きくなり、風は強く吹きます。上空に強い寒気が流れ込み、冬型が強まった場合、雪雲は強い季節風に乗って、若狭湾から関ヶ原を抜け、名古屋のある濃尾平野にも大雪をもたらします。

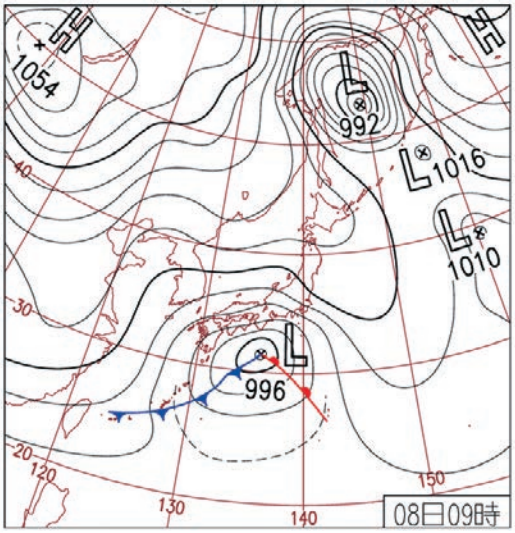
「粉雪」は、気温が低く、空気が乾いているときに降ります。冬型で上空の寒気がかなり強いと、名古屋でも「粉雪」になることがあります。

## 南岸低気圧による雪

2008年2月9日。その日は土曜日で、仕事は休みでした。名古屋は昼過ぎから急に雪が強まり、午後4時には13cmまで、一気に積もりました。積雪のため車はノロノロ運転の大渋滞で、大雪報道対応のために、あわてて地下鉄で会社に向かったことをよく覚えています。

低気圧が日本の南岸を通過するときも、大雪になることがあります。この低気圧は南岸低気圧と呼んで、冬型が長続きしなくなる2月から3月ごろに、太平洋側に大雪をもたらします。低気圧が、陸地よりやや南側を通ると、低気圧に伴う雨雲がかかる上、上空には寒気が流れ込むため、雪が降ります。東京では、2014年2月に2度、27cmの大雪となった日があります。記憶に残っている方もいるのではないでしょうか。いずれも南岸低気圧によるもので、名古屋でも積雪を観測しました。

「ぼたん雪」は、水分を多く含んで重いのが特徴で、気温が比較的高いときに降る大粒の雪です。低気圧は、水分をたくさん持っているので、南岸低気圧による雪は「ぼたん雪」になることがほとんどです。




2014年2月8日の天気図（気象庁HPより）

## 5cm ＝ 50cm ！？

気象台は、大雪により災害が発生する恐れがあると予想した場合「大雪注意報」や「大雪警報」を発表します。現在、注意報や警報は、市町村ごとに発表していて、その発表基準は、地域によって異なります。

| | 東京23区<br>名古屋市 | 香川県高松市 | 岐阜県白川村 | 群馬県みなかみ町<br>（山地） |
|---|---|---|---|---|
| 大雪警報 | 20cm | 30cm | 80cm | 100cm |
| 大雪注意報 | 5cm | 10cm | 50cm | 40cm |

大雪警報・注意報の発表基準（24時間　降雪の深さ）

同じ大雪注意報でも、名古屋市は、24時間で5cmの雪が降ると予想された場合に発表されますが、お隣岐阜県の豪雪地帯、世界遺産〝白川郷〟がある白川村は、50cmの降雪が予想されないと発表されないのです。名古屋市で20cmの雪が降るとなると、警報レベルの一方で、白川村では、注意報の基準にさえ達しないのです。

お住まいの地域の基準値は、気象庁のホームページに掲載されていますので、雪だけでなく、雨や風なども確認してみて下さい。これから雪のシーズンを迎えることになります。天から〝手紙〟が送られてくる前に、テレビやラジオなどから送られる〝気象情報〟の開封を早めにお願いします。

* 背骨のように縦断し、主要な分水嶺となっている山脈